

人づくりに、明日への展望を切り開く【先読み】にも使えるノート

優良図書、有用情報の所在案内（『生涯学習の友』）

『取って置きのノート』®

NO.26

2021年5月

仕事とイノベーション

思考×行動＝商売繁盛のヒントがいっぱい

中小企業の発展、地域・地方の活性化

イノベーション(新しい組合せ): ヒト、モノ、カネ(資本)、情報、仕組み、資源、時間、夢、アート、デザイン……

新しい考え方、新しい働き方、新しい商品、新しい営業、躍動ニッポン

人間力(意識改革。日々新た)×経営力(イノベーション)＝我が国の元気、幸福度アップ

『10年後に食える仕事 食えない仕事。AI、ロボット化で変わる職のかたち』

渡邊正裕 著(東洋経済新報社、2020年2月)

・ビジネス現場でAIが強みを発揮するのは、その圧倒的に優れた「推論」力。人間にしか出来ない付加価値を提供できる職群と人間の手先の器用さで職人芸領域に達してる職群は成長株。

・「意義」と「感動」が人間の生きる道。人間の強み: 創造、感情、信用、手先(器用)、ボディ。

世界が中国への「貿易依存」を脱するための知恵

東洋経済オンライン(API地経学ブリーフィング 大矢 伸さん)。2021年1月。

- ・同志国連帯や生産拠点の分散などが必要
- ・アダム・スミス『国富論』: 「国防は富裕よりも重要だ」
- ・中国の「経済的恫喝」に屈しないために「自由連合基金」を提案
- ・「経済安保は国を守る」

“経済成長から「成熟」への価値転換を。ポスト資本主義の社会のかたち”

日立製作所 Executive Foresight Online(法政大学法学部教授 水野和夫さん)。2020年12月。

- ・変容を迫られるグローバル資本主義
- ・「より遠く」、「より速く」が被害を拡大
- ・「より近く」、「よりゆっくり」な社会へ
- ・モノはもう満ち足りている
- ・資本主義が欲望を増大させる

- ・日本は世界最大の純債権国
- ・頑張りすぎて膨れ上がったところを元に戻す
- ・恒久的な問題に正面から向き合うゆとりを

変わらないことは負けること～ パンデミック収束で日本売りが始まる？

大和総研(金融調査部 金融調査部長 児玉 卓さん)2021年1月。

- ・生産性の相対劣位は単位労働コストの上昇圧力を生み、国の競争力を減退させて為替レートを引き下げる。
- ・重要なのは生産性の相対劣位を回避し、インフレになるか、競争力の減退に拍車がかかるかのいずれをも起こさせないこと。それができるのは企業の意味以外にはない。

『SDGs思考。2030年のその先へ、17の目標を超えて目指す世界』

田瀬和夫、SDGsパートナーズ 著(インプレス、2020年9月)

- ・企業がSDGsに取り組む意義として、「新市場の形成」「既存市場における新しいニーズの創出」「優秀な人財の確保」の3つが挙げられる。
- ・SDGsの背景にある「世界観」(Why)を理解することが何より重要。SDGsを実装するための思考法は、「時間的逆算思考」「論理的逆算思考」「リンケージ思考」の3つである。
- 【ビジネスにおいて、洞察力を高めるメリット】: ①問題解決能力の向上、②コミュニケーション能力の向上。 【洞察力がある人の特徴】: ①観察力がある、②物事をゼロベースで捉える、③多角的な視点を持っている、④情報に敏感で、インプット量が多い。

『デジタル・ミニマリスト。本当に大切なことに集中する』

カル・ニューポート 著、長場 雄/イラスト、池田真紀子 訳(早川書房、2019年10月)

- ・FacebookやTwitterに代表されるSNSには、中毒性がある。スマホとSNSを手ばなして、「時間」「生産性」「集中力」「幸福感」を一気に手に入れる。これは生き方の問題で、僕らには新しい【哲学】が必要。
- ・スマホに支配されるライフスタイルから、日々幸せを感じるライフスタイルへ。

『戦略参謀。経営プロフェッショナルの教科書』

稲田将人 著(ダイヤモンド社、2013年8月)

- ・企業が優秀かどうかは、組織としてPDCAを回す能力を謙虚な姿勢で体得し実践しようとしているかどうか。市場を冷静に、正確に分析、把握してみると今のお客様が満足していないことが数多く見えてくる。

・人、性善なれど、性怠惰なり。教育費用は、会社の能力を高めるということを考えると、本来削ってはいけない費用。

ついて行きたいと思うリーダーの特性(信頼の源泉)

①正直、誠実である ②先が見える、前向き ③意欲を与えてくれる ④実力がある

「リーダーとは「希望を配る人」のこと」 ナポレオン・ボナパルト

「為すべきことは熱を与えるのではなく、光を与えること」 バーナード・ショー

『1日3時間だけ働いて、おだやかに暮らすための思考法』

山口揚平 著(プレジデント社、2019年2月)

・「思考力」こそ、AIやロボットに勝てる最大の武器。情報や知識をいくら持っていても、きたるべきAI時代に生き残れない。それよりも、「短時間でパフォーマンスを上げる考え方を身につけ動くか」がカギ。

・アイデアがある人は悩まない。「できる人」は常に代替案を用意している。「信用」「個性」「つながり」。今は、努力して成果を挙げる能力より、最小限の力で効率的に成果を挙げる「コスパ力」が求められている時代。

『すでに起こった未来。変化を読む眼』

P.F.ドラッカー 著、上田惇、林 正、佐々木実智男、田代正美 訳
(ダイヤモンド社、1994年11月)

・利益など存在しない。存在するのはコストのみ。真のコストをカバーする利益をあげるこそ企業の責任である。真の資金コスト、明日のリスク、労働者や年金生活者のニーズに見合う利益を上げていない企業は社会から収奪している企業である。

・経済活動とは現在の資源を未来に委ねること。未来に委ねるとは常に逆目に賭けること。なぜなら人間は未来を知ることができないから。ゆえに、賭けは勝つ確率よりも負ける確率の方が常に高い。マネジメントに対する正しい問いは、その事業の未来リスクをカバーするために最小限必要な利益率はどれだけか、でなければならない。

『マインドセット「やればできる！」の研究』

キャロル・S・ドゥエック 著、今西康子 訳(草思社、2016年1月)

・できなくて失敗したことは、自分の欠けている点を気づかせてくれると同時に、伸びしろの存在や有り余る可能性を教えてくれる。これが「しなやかなマインドセット」。

・常に学び、成長していく。その意識があれば、自分や他人は有能や無能などといった定まったものではなく、共に成長していく仲間であるといった認識でしかない世界となる。

『チームが機能するとはどういうことか。「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ』

エイミー・C・エドモンドソン 著、野津智子 訳（英治出版、2014年5月）

・成功しているチームングの特別行動を「率直に意見を言う、協働する、試みる、省察する」と定義。

・学習するための組織づくりには「境界を声で通じ合う、失敗から学ぶ、心理的安全を生み出す、学習するための骨組みを作る」が不可欠。

「時給や月給で働く人」が貧困化する理由

・時給制の問題点は、仕事のクオリティや成果にあまり関係なく、賃金が支払われるということ。極端な話、何もしなくてもお金がもらえとなれば、一生懸命働くことがバカバカしくなる。その人件費すら非効率となれば、機械を導入して自動化される世の中。

・目に見える労働時間には関係なく、より付加価値のあるアウトプットを出せたか、人の役に立てたかどうかという労働時間に関係なく「成果」でお金がもらえる人になろう。

『(A)あたりまえのことを(B)バカになって(C)ちゃんとやる』

小宮一慶 著（サンマーク出版、2009年4月）

・あたりまえのことをバカにしてやらないか。あるいは、バカになってちゃんとやるか。この姿勢の違いが、人生という長い航海においていったいどれだけの差を生み出すことか。

・雑事を雑にやるのではなく、ていねいにやる。そうすることで、それは雑事ではなくなる。雑事を雑にやっている人は、結局、雑な生き方しかできない人になる。

『LIFE SHIFT (ライフ・シフト) 』

リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット 著、池村千秋 訳（東洋経済新報社、2016年10月）

・100年ライフでなにが変わるか？ 70代、さらには80代まで働かなくてはならない。新しい職種が登場し、手持ちのスキルだけでは生き残れない。変化を経験する機会が増えるため、選択肢をもっておくことの価値が増す。

・無形資産(友人関係など)、変形資産(知識、教育など)、有形資産(お金)という3種類の資産を形成。 学び直しなど新たな変形資産の形成が必要。

『成長の限界、人類の選択』

デニス・メドウズ、ヨルゲン・ランダース 著、枝廣淳子 訳(ダイヤモンド社、2005年3月)

・「行き過ぎ」という概念である。人類は現在、資源消費と排出で重大な限界を超えつつある。既に「持続可能」でない領域にいる人類は、「行き過ぎ」を引き戻し、「エコロジカル・フットプリント(環境や生態系に与える影響度)」を減らさなければならない。

・個人の価値観を変え、政策を変更することなどによって、先進国は大量消費社会を変革し、途上国は人口増加を抑制することが必要。 だが、現実社会は理想とほど遠い状態。

一流ビジネスパーソンが必ず持っている「三種の神器」をご存じか

プレジデントオンライン(マーケティングコンサルタントの酒井光雄さん)。2021年1月。

政治家には「地盤」「看板」「カバン」。

①地盤:「社外の人的ネットワーク力」 ②看板:「パーソナルブランド力」 ③カバン:「自己投資」

『パツと書けてすぐに売れる、稼ぐ人の「超速」文章術』

中野 巧 著(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2020年7月)

誰もが発信者になれる環境が整い、商品やサービスの魅力を文章で表現する技術はもはや不可欠。「速く書く」と「上手い文章」は両立できる。

「誰に」×「何を」×「継続」=あなたの情報発信の影響力

『ユダヤの商法(新装版)』

藤田 田 著(ベストセラーズ、2019年4月)

・ユダヤ商法の「定石」こそ金儲けのノウハウ。「定石」さえ守れば、金儲けなんか誰でもできる。

・数字に馴れ、数字に強くなることがユダヤ商法の基礎。 78:22の法則。百点満点で60点とれば合格。 商売は口と女を狙え。

『仕事2.0 人生100年時代の変身力』

佐藤留美 著(幻冬舎、2018年8月)

・長寿化の流れとともに、「教育→ 仕事→ 引退」と人生が3ステージだった時代は終わりを告げ、仕事がつずっと続く「生涯現役時代」に突入。これまでの働き方が「仕事1.0」だとしたら、これからは「仕事2.0」へ。

・老後対策は現役時間を伸ばすのがベース。①現役時間を伸ばすスキルや知識のアップデート、②健康や予防医学、友人や家族とのつながり、③自分を変身させるための意欲とネットワーク。

『労働2.0 やりたいこととして、食べていく』

中田敦彦 著(PHP研究所、2019年3月)

・やらされ仕事で、一生を終えるな！ 仕事とは、「人に役立つ暇つぶし」。「やりがい」だけでは、いずれ疲弊する。

・「人との違い」はすべて才能。恥をかけ！ 小さな成功体験の積み重ねが、コンテツを強化する。成功例は素直にリスペクトせよ。

『お金2.0 新しい経済のルールと生き方』

佐藤航陽 著(幻冬舎、2017年11月)

・資本主義から「価値主義」へ。「価値主義」とは経済の民主化である。「共感」や「感謝」などの内面的な「価値」の可視化と流通。

・「お金」から解放される生き方。人間の心は放っておくとすぐサビる。「お金」のためではなく「価値」を上げるために働く。枠組みの中での競争から「枠組み自体を作る競争」へ。

コトラーのマーケティング理論 1.0～4.0

コトラーは米国の経営学者。顧客のセグメンテーションやマーケティング・ミックスなど、現代のマーケティングで活用している理論の考案者。「近代マーケティングの父」「マーケティングの神様」と呼ばれる。

マーケティング1.0(1900～1960年代): 製品中心。大量生産、大量消費(モノ不足)

マーケティング2.0(1970～1980年代): 消費者志向。顧客に欲しがられる戦略(モノ余り)

マーケティング3.0(1990～2000年代): 価値主導。精神的な充足の付加価値(モノ離れ)

マーケティング4.0(2010年代～) : 自己実現(に向けての踊り場?)

「マーケティング5.0?」…… 今度こそ「自己実現欲求」に到達か

「マーケティング6.0?」…… マズローが晩年に示した「6番目の欲求(自己超越)」

「大切なのは創造です。 人真似を脱し、新しいものをつくり出すところに、進歩が生まれる」 升田幸三（将棋棋士、実力制第四代名人）

「人を信ずること、スピードに後れぬこと、アイデアを尊重すること。
これが私の経営の3つの骨子である」 本田宗一郎

『仕事は「行動(やったこと)」がすべて。無名の偉人・木全ミツの仕事』

伊藤彩子 著(WAVE出版、2015年6月)

- ・できるか、できないかではない。 やるか、やらないか。徹底的に行動すること。 実行力100%を貫くこと「仕事はやったことがすべて」。
- ・沈んでいた心は明るいほうへ。 浅かった考えは深く、そして何より自分の行動力。

『男性漂流。男たちは何におびえているか』

奥田祥子 著(講談社(2015年1月)

- ・40代男性に降りかかる「(未婚者への)結婚圧力」、「育児」、「介護」、「老い」、「(リストラなどの)仕事」。 けっして予定通りにはいかない人生の悲哀。 男であるがゆえに、周囲に弱みを見せられず、すべてを自己責任にされ、誰にも本当の思いを打ち明けられず、孤立し、懊悩する中年男性たち。
- ・「自己に内在する明確な「敵」から、曖昧な様相で外部から大群で迫りくる「敵」へ。 その社会的圧力は、男性自身を再び硬い殻に閉じ込め、孤独や苦悩の隘路へと追い込んでいる。

『市場を変えろ。既存産業で奇跡を起こす経営戦略』

永井俊輔 著(かんき出版、2019年9月)

- ・レガシー産業(ある種の斜陽産業)のレガシー(顧客や技術などの財産)をどう発展させてイノベーションにしていくか。 必死に生き残るだけではなく、どうしたら花形産業に返り咲き出来るのか。
- ・社会の変化を見据えて顧客のさらなるニーズに応え続けつつ、ITをうまく使って時間とコストを効率化し、利益を叩き出す。 この利益を次なる新しいビジネスの原資として、ビジネスを育てて、レガシーから脱却していく。「古き良き」を「破壊」するのではなく「活かす」。

『世界一やさしい問題解決の授業』

渡辺健介 著(ダイヤモンド社、2007年6月)

- ・問題解決能力を身につければ、より主体的に生きることができるようになる。 自分で考えて、決めて、行動する。 そして結果が出る。 今からこの癖をつけておけば、自分で人生を切り開いていける。

・仮説を立てれば、調べることが明確になるので、情報収集がはるかに楽になる。仮説が間違っていることに気づいたら修正すればよい。

「本は読まない」が約半数。

平成30年度「国語に関する世論調査」(文化庁)

1か月の読書量は、「読まない」が47%、「1、2冊」が38%、「3冊以上」が15%であった。

読書の利点は、「新しい知識や情報を得られる」が最も多く、以下「豊かな言葉や表現を学べる」、「感性が豊かになる」、「想像力や空想力を養う」、「感動を味わえる」、「楽しく時間を過ごせる」等が続いた。

下請け立国・日本を脅かす、ふたつのイノベーション

週プレNews(古賀茂明さんのコラム／経産省元官僚)、2019年11月。

・日本は世界のグローバル企業の生産を支える“下請け立国”といえる。ところが最近、その地位を揺るがしているのが3Dプリンター。今では日本の熟練工でもおいそれと作れない複雑な形状の部品が短時間で作れるようになった。日本は3Dプリンター分野では外国企業に大きく後れを取っている。

・“素材大国”日本もまた同様に盤石ではない。それを脅かすのがAI。かつては日本もAI研究のトップを走っていたが、今では米中などに先行され、後発グループとなっている。

「人間というものは、いつ、どういう仕事にぶつかるかもしれないものである。」

そのときに、その仕事に責任をもってやれるだけの準備を平生からしておくのは大事な心がけだと考える。それが、いわゆる勉強であり修養である」河田 重

『仕事の思想。なぜ我々は働くのか』

田坂広志 著(PHP研究所、2003年9月)

・仕事を通して成長するためには、夢を持つこと、語ること。鏡(上司、顧客)をみること。

・マネージャーの大切な仕事は、自分が成長し続けること。部下の将来への責任も間接的に受け止めること。

・仕事の報酬には、給料、能力、成長があるが、このうち、「人間としての成長」だけは決して失われることのない報酬であり、自ら求めて得るべき報酬。

『本を遊ぶ。働くほど負ける時代の読書術』

小飼 弾 著(朝日新聞出版、2018年4月)

・働くより、遊ぶことが技術革新時代を生き抜くカギになる。中でも本は、最高の遊びのツール。構想力＝妄想力。本に実利を求めすぎるとかえって損をする。本を読めば、自分が読める。本は最良の話し相手。本を読む時間もないほど働いてはいけない。

・うさんくさい本で批判を練習する。空想力ほど、役に立つものはない。本を読まずに、チャレンジなどできない。

『ソース。あなたの人生の源は、ワクワクすることにある。』

マイク・マクマナス 著、ヒューイ陽子 訳(ヴォイス、1999年10月)

・「ソース」(Source)、人生の活力「源」。ワクワクすることに熱中する。ワクワクとはあなたの個性の別名であり、ワクワクを生きること、あなたらしさを生きること。

・目標は立てるな。やりたいこと、興味を惹かれること＝“ワクワクすること”は、上手にバランスをとりながら残らず全てやろう。下手でも好きなものはやってみる。

『「活力ある企業」の条件。いい会社には、人を大切にする思想とその実践があった！』

赤岩 茂 著(TKC出版、2011年4月)

・幸福の定義は「成長」と「貢献」が実現している状態。人づくりが未来を創る。年輪を刻み、想いを継承する。学び続けることが成長の礎。

・そもそも、「経営」は仏教用語と言われ、「経営」の「経」は「お経」の「経」であり、根本法則(真理、大自然の理法、宇宙の法則)を意味し、それを「営む」とは、探求し、実践すること。

『「逆境」が男を育てる。“番狂わせ”の人生大逆転術 54』

潮風洋介 著(学研プラス、2015年6月)

・どんな失敗も、すべては起こった瞬間に「過去」になる。「もう、だめだ……」と思ったときが、逆転のチャンス！ どん底の今こそ「新しい自分」を始めるチャンス。どんどん会社の外に活動の場を求めよう。

・不遇がハングリー精神を生み、人生を成功に導く。自分が得意とすることを探り当てよう。それに没頭することが「できる人」に変わる第一歩。会社人生だけが、あなたの人生ではない。

時間に余裕がない人は、お金を無駄に使う。お金に余裕がない人は、時間を無駄に使う

ライフハッカー[日本版] 2019年11月

この金銭的な制約と時間的な制約は、互いに影響し合っている。金銭的にも時間的にもある程度余裕を持つことが、ワーク・ライフ・バランスを保つために大事なこと。

『鏡の法則。人生のどんな問題も解決する魔法のルール』

野口嘉則 著(綜合法令出版、2006年5月)

・原因と結果の法則。人間誰もが自分を客観的に見ることは難しい。自らが変われば、見方も変わり周囲も変わる。他人や環境は変えられないけど、自分を変えられる！

・自分の望む世界は自分が与えることで得られる。「感謝できること」「迷惑かけたこと」を具体的に省みる手法は「内観」と呼ばれ。古くからある心理療法。

『マクドナルド、P&G、ヘンケルで学んだ。圧倒的な成果を生み出す「劇薬」の仕事術』

足立 光 著(ダイヤモンド社、2018年11月)

・仕事が上手く回りだしたら、それは「成長」していない証拠。数字で測ることのできない仕事をするな。「時間」は「お金」を払ってでも増やせ。

・選択肢があれば難しい方を選ぶ。無難では何も変わらない。人を動かすのは「感情・結果・KPI」だけ。折角の劇薬も、使う側に「副作用」に耐える覚悟がなければ効果は得られない。

KPI: 重要業績評価指標。企業が目標を達成するためにはKPIを設定することが重要。「新規顧客獲得数」「新規受注獲得数」などマーケティングや営業の現場でよく使われるが、サポートや管理部門でも「顧客満足度」や「従業員満足度」などのKPIを導入している企業がある。

『ネクストシェア』

ネイサン・シュナイダー 著、月谷真紀 訳(東洋経済新報社、2020年7月)

・民主主義への行き詰まり、大企業ばかりが繁栄する資本主義経済への閉塞感を背景に、協同組合が企業や国家に代わる新しい社会を作る可能性を探る。

・今は協同組合事業が世の中のビジネスのやり方を変えるまたとない好機。テックカルチャーが企業や国家に代わる新しい社会を作る。コロナ後の「成長なき時代」に適応した新しい働き方や暮らし方。

得意なことを生かして、社会が必要とする一隅を照らし、少しでも次世代の役に立ちたい。

作家となったきっかけは、故郷と人とのつながり ・人間は強く、そして弱い。同行二人(どうぎょうににん)で生きる ・アントレプレナー(事業を立ち上げて経営に乗り出す人。特にベンチャー企業の創設者を指す)を増やしたい ・先人の足跡が簿外資産になる

どうぎょうににん： 西国巡礼者などがいつも弘法大師と一緒に巡礼しているという意で
笠に書きつける語。この語の場合、「同行」を「どうこう」、「二人」を「ふたり」とは読まない。

『困った部下が最高の戦力に化けるすごい共感マネジメント』

売上を伸ばしているリーダーが実践している最強チームの作り方

中田仁之 著(ユサブル、2018年1月)

・共感力とは、文字通り他人に共感する力のこと。他人の気持ちが分かる力ということであり、他人に自分の気持ちを分かってもらえる力。さらに一番重要なことは人と人が本当に共感しあった時に想像もできないような大きな力を生み出す。

・リーダーがとるべき姿勢とその手順…… ①感謝を伝える、②可能性を信じる、③誤った行為を叱る、④感情を共有する、⑤チーム心を養う

『心の持ち方 完全版』

ジェリー・ミンチントン 著、弓場 隆 訳(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年7月)

・私たちは人生を深刻に考えすぎる。いつも過去の悪いことや、これからの心配事にとらわれ、「人生は一大事」「人生はつらく苦しい」と思いこんでいる。自分を大切に。自分だけは大切に。他人に迷惑かけないなら自分優先。

・幸福へのカギは多くのものを手に入れることではなく、多くのものを欲しがらないこと。多く持てば持つほど、繁雑になる。

『ドラッカーと生産性の話をしよう』

林 總 著(KADOKAWA、2019年4月)

・生産性を上げるだけでは足りない。そこに付加価値を生まなければ生産性を上げても意味がない。

・お金、時間、知識。「3つの生産性」で劇的に変わる

自分より偉い人が全て正しいと思わない。すり減らない働き方をするために大事なことは

- ・増える「殺伐とした」職場 ・身を守る方法は「逃げる」「戦う」「うまく伝える」
 - ・戦うには、日頃から胸を張れる働き方をしていることが大事。 ・大事なのは、「選択肢を増やす」こと。
-
-

お金持ちになる人の「生活習慣」3つの鉄則

お金持ちほどお金を大事に使う生活を送っている

All About (新屋真摘さん)。2019年10月

- ①支出のコントロールが上手 ②取るべきリスクを取って、避けるべきリスクを避ける ③経験の中でつかんだ成功セオリーを持っている
-
-

英語だけ勉強しても「国際人」にはなれない。グローバル社会で生き抜くための3つの条件

LIMO。2019年10月

- ①他国の文化を受け入れる器の持ち主 ②自分の意見を持つ ③グローバルな視点を持つ
-
-

人が離れてしまう原因は？ 人間関係を壊す3つの特徴

fumumu (くまのななさん)。2019年10月。

- ・自分の意見だけが正しいと主張
 - ・人の成功談に嫉妬する。素直に「いいなー！ 羨ましい！」って言えばいいのに。
-
-

『ハートドリブン。目に見えないものを大切にする力』

塩田元規 著(幻冬舎、2019年10月)

合理的に正解を出せる時代は終わった。数字・計画・思考だけではなく、感情・直感・感性を研ぎ澄ます。自分の内面を発散させることによってしか価値が生み出せない時代がやってきた。

- ・人はより不合理に意思決定し始める ・「働く」ことも機能的価値から感情価値へ ・無駄・無価値・無邪気な余白の時間を作る 等
-
-

『ニューノーマル時代の適者生存』

豊田圭一 著(クロスメディア・パブリッシング、2020年6月)

・思考を止めるな！ 逆境をものともせず、その状況や環境を受け入れ、自ら変革(変容・変態)して、周りを巻き込みながらアクションを起こすためのマインドセット(心構え・向き合い方)。

・「人はアウェイで磨かれる」「好奇心」。 周囲を巻き込む人間力。

『THINK CIVILITY (シンク シビリティ) 「礼儀正しさ」こそ最強の生存戦略である』

クリスティーン・ポラス 著、夏目 大 訳(東洋経済新報社、2019年6月)

我々は「礼儀正しく」することはマナーの領域であると考えがちであるが、そうではなく、職場の空気を健全に維持することは生産性を高める(あるいは生産性の毀損を防ぐ)ことであり、企業業績の向上に直結することであるとすれば、それは経営戦略の問題である。

・一流のエリートほど、なぜ、不機嫌にならないのか？ ・無礼は無礼を生み、礼節は礼節を生む

『あなたはあなたが使っている言葉でできている』

ゲイリー・ジョン・ビショップ 著(ディスカヴァー・トゥエンティワン 2018年10月)

頭の中の言葉を置き換えれば人生はうまくいく！ 答えは外側ではなく、あなたの中にある。答えを見つける必要なんてない。あなたが答えなのだから。

・自分にどんな言葉をかけるかで人生が変わる。 ・ただ動こう。思考は脇に置いて進もう。

・ツキのなさを嘆くのはやめよう。ほかの人のせいにするのはやめよう。 外的要因や状況のせいにするのはやめよう。

『人望が集まる人の考え方』

レス・ギブリン 著、弓場 隆 訳(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年7月)

・人間関係の極意とは、お互いの自尊心を満たすようなやり方で相手と関わること。これこそが人と関わって本当の成功と幸福を手に入れる唯一の方法。

・相手を服従させるのでも、相手にへつらうのでもなく、相手の自尊心を満たすコミュニケーションによって行動を起こさせ、自分もメリットを得る。これこそが理想の人間関係。

『ファシリテーションの教科書。組織を活性化させるコミュニケーションとリーダーシップ』

グロービス 著(東洋経済新報社、2014年10月)

・議論の「仕込み」…… ①議論の「出発点」と「到達点」を明確にする ②参加者の状況を把握する ③議論すべき論点を広く洗い出し、絞り、深める

・議論の「さばき」…… ①発言を引き出す ②発言を理解し、共有する ③議論を方向づける ④結論づける

「人間は力が不足しているのではなく、強い意志に欠けているのだ」 ヴィクトル・ユゴー

「人間にとって知識や知恵、体験や情熱も大切ですが、もっと大切なのは心構えです。すなわち心的態度です。

心でどう思ったか、どう考えたかが、その人の才能や努力、知識以上に重要な要素なのです」 ジョセフ・マーフィー

『俯瞰図から見える。IoTで激変する日本型製造業ビジネスモデル』

大野 治 著(日刊工業新聞社、2016年12月)

・モノと情報をつなぎ、新たな価値を生み出すというIoTが進んでいる。「さまざまなモノやヒトなどからデータを得て処理し、現実世界へフィードバックする」一連の活動の成果が価値を生む。要は現実世界の活動に足して、新たな価値を生み出すことこそが肝心。

・IoTに取り組む企業の取り得る戦略は「垂直統合戦略」「水平横断戦略」「モノ重点戦略」の3つ。IoTのキーワードは、「つなぐ、つながる」ということに尽きる。その意味するものは「企業と顧客が近くなる」ということ。

グローバルリーダーの条件とは

盛田昭夫語録から考える

🌐 グローバルビジネスの考え方

- ・「日本あつての世界」ではなくて「世界あつての日本」
- ・大事なのは「知恵」と「スピード」の2つ
- ・まったく違う知識や考えを持った人と、まず対話できることこそ大事

🌐 異文化コミュニケーション

- ・黙っている方が安全だという雰囲気は非常に危険
- ・原稿を読んでいては絶対、人は口説けない。
- ・相手の電波が何チャンネルに合っているかを知って、その電波を出せばちゃんと受信する。それがコミュニケーション。

🌐 マネジメントの基本

- ・自分を開発し、発展していくためには、他人と同じ考え、同じ行動をしてはならない。
- ・もう50歳以上の人間ではダメな時代が来ている

『「考える」力をつくる30のルール』

長野真一 著、NHK「東北発☆未来塾」制作班 編(アスコム、2014年6月)

企画のために熱心に情報を収集する。ところが、情報収集にばかり執心してしまうと、いつまでたっても企画書はできない。情報を整理し、捨てるものは捨てる。脳を「ギアチェンジ」することが大事。

- ・頭を切り替えて提案へ向かえ
- ・コンセプトは机の上で考えるな。日常に落ちている(箭内道彦)
- ・人の意見をまずは肯定しよう(山崎 亮)
- ・企画は「成功させる」ために作成するもの

リーダー 5つの心得(知恵)

- ・「大義」がなければ生き残れない。
- ・経験を「知恵」に変え、それを「お金」に変える。
- ・大事なものは「部下のケア力」と「現場」と「構想力」。
- ・「常勝のリーダー」なんてどこにもいない。
- ・人事は「事実」を尽くすべし。

人間の「知」……知能、知性、知識、知恵

『考える力をつける3つの道具』

岸良裕司、きしらまゆこ 著(ダイヤモンド社、2014年6月)

正解のない問題にどう取り組むか。ごちゃごちゃした現実、もやもやした解決策、どんよりした将来を解消するための「考える力をつける道具」はたったの3つだけ。

- ・「ブランチ」は、問題をわかりやすく整理する道具。
 - ・「クラウド」は、「あちらを立てればこちらが立たず」の板挟みを解消する道具。
 - ・「アンビシャス・ターゲットツリー」は、障害を予想して、目標を実現する道筋を見つける道具。
- 複雑にしない、人のせいにならない、「分かっている」と言わない。そして、WIN-WINの関係を築く。

『君に成功を贈る』

中村天風 著、天風会 監修(日本経営合理化協会出版局、2001年12月)

- ・大事なことを聞くときは、恋人の言うことを聞くような気持ちで聞くようにしてごらん。
- ・なんの努力も実行もせずについて、自分の夢や希望が実現するんなら、人生なにも苦労しやしませんよ。
- ・どんな名医や名薬といえども、たのしい、おもしろい、嬉しい、というものにまさる効果は絶対がない。

「人間は何事にせよ、自己に適した一芸一能に深く達してさえおればよろしい」 与謝野晶子

「分別のある人間は、世間に自分を合わせる。 方や、無分別な人間は、あくまでも世間を自分に合わせようとする。

だから、すべての進歩は、無分別な人間の双肩にかかっていると言える」 バーナード・ショウ

『徹底にかみくだいたドラッカーの「マネジメント」「トップマネジメント」』

二瓶正之 著(主婦の友社、2019年3月)

・マネジメントは万人に開かれたものであり、自分自身のマネジメントが重要。 経営者の課題はミッションの実現、自己実現、社会貢献。

・マネジャーの基本業務は目標設定、組織化、動機づけ、評価、育成。 マネジャーとして「上司も人間」と理解し、適切なアシストをするべし。 しかしマネジャーたる必要条件是「真摯さを持った人柄」。

資産を築く成功の秘訣

富裕層研究家のスタンリー博士らが1万人以上の億万長者を調査

- ①収入よりはるかに低い支出で生活。
- ②資産形成のために、時間、エネルギー、お金を効率よく配分している。
- ③お金の心配をしないで済むことのほうが、世間体を取り繕うよりもずっと大切だと考える。
- ④社会人となった後、親からの経済的援助を受けない。
- ⑤子どもたちは経済的に自立している。 ⑥ビジネスチャンスをつかむのが上手。
- ⑦ぴったりの職業を選んでる。

四方よし

日本能率協会 KAIKA研究所 近田高志さん。2021年1月。

・企業の社会的責任と「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)。 近江商人の経営哲学。これに「未来よし」を加えた「四方よし」。

・多様な働き方や、社員のエンゲージメントへの関心が高まっている昨今、「売り手よし、買い手よし、世間よし、働き手よし、未来よし」の「五方よし」としても良いかもしれない。

＜空気＞が物事を決める 山本七平『空気の研究』

「日本人を動かしているのは、人じゃなくて空気なんです。一人一人が自立(自律)していないから、空気が変わるとみんな付和雷同して意見や態度をコロコロ変える」 井上ひさし

『FUZZY TECHIE (ファジー・テッキー) イノベーションを生み出す最強タッグ』

スコット・ハートリー 著、鈴木立哉 訳(東洋館出版社、2019年10月)

・人間性を高める文系(ファジー)、機械化を進める理系(テッキー)。この2つの素養を持つ経営者や起業家たちがAI時代をリードする。

・アメリカ最先端のSTEAM教育に注目。つまりScience(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)とArt(芸術)の融合。

・「テッキー(理系)」の活躍によって情報通信技術が民主化されはじめた現代において、「ファジー(『曖昧な』文系)」がアイデアとリーダーシップを発揮することで、人間にとってより豊かな時代を築くことができる。

一流は「聞く6割、話す3割、沈黙1割」

会話から(人)嫌いを消す 沈黙を恐れない

「考えなさい。調査し、探究し、問いかけ、熟考するのです」 ウォルト・ディズニー

「新人が使えない！」とイライラする前に、見直してほしい3つのこと

fumumu。2019年11月

・教育体制を見直す ・マニュアルを見直す ・適性を見直す

営業のプロ中のプロが気づいた「ブレイクするお笑い芸人」の共通点

プレジデントオンライン(和田裕美さん／ビジネスコンサルタント)。2021年1月

・成功するお笑い芸人には、根底に「お客様をハッピーにしたい」という気持ちがある。これは営業で大事なことと同じだ。

・売れっ子芸人達に共通する「本番力」(本番で力を発揮する能力)。ネタをつくるために日常を観察している。「何か面白いことないかな」と検索する力。

読書考

- ・読書の本質は「出会い」。異質な人や考え方と出会い、理解するきっかけになる装置。
- ・読書の価値は「情報の摂取」ではなく、著者が答えにたどり着くまでの思考過程を時間をかけて追体験すること。
- ・ネット社会における読書とは「良質のノイズ」。未来が見えにくい世の中にあって大局観を磨いてくれる最良のツール。

大局観を磨く「多・長・根」⇒ 複眼で捉える[多]、短期ではなく長期スケールで見る[長]、物事の本質を問う[根]

専門スキルがなければ生き残れない。サラリーマンの現実

週刊SPA！（人事コンサルタントの城 繁幸さん）。2021年4月

- ・専門スキルこそが唯一無二の武器。市場の変化で死ぬまで働ける！ まずは「自分の職能を言語化」できるようになることから。
- ・自らに備わった武器を認識し、それを磨き上げること。本当にそれしか生き残りへの道はない。

『中流崩壊』

橋本健二 著（朝日新聞出版、2020年7月）

- ・日本人はなぜ長い間、自分を「中流」と思ったのか。社会調査のミスリードと国民の願望がつくりあげた“幻想”に過ぎなかった。
- ・現在、日本社会はかつてないほどに格差が拡大し、さらに新型コロナ禍が追い打ちとなり「下流」に滑落するリスクが高まっている。

目に見えない豊かさを知る。「豊かさ」とは目に見えないもの。

流行、ブームを性急に追わない。すぐ、下火になる。いいモノは、簡単には廃れない。

「金を浪費し、なおかつ貯金する人は、最も幸せな人である。なぜなら、相反する二つの喜びを持つからだ」 サミュエル・ジョンソン

「貯金をすることで、あらゆる習慣のなかで最も大切な儉約という習慣を身につけられる。儉約は資産作りの名人だ。儉約は財産を生み出すだけでなく、人格をも育てる」 アンドリュー・カーネギー

資源は有限、知恵は無限。有限なお金を使う前に無限な知恵を出しあおう！

『迷った時、「答え」は歴史の中にある。歴史を人生に活かす64の方法』

中谷彰宏 著(ユサブル、2020年6月)

- ・一見、今と過去は別のものだと思いがち。しかし、過去の人も同じ失敗を繰り返し、その都度その克服法が歴史として残っている。
- ・習い事をするならその分野の歴史を知ることが上達のコツ。教養は身を助く、教養を武器にしよう。歴史は全て仮説、オリジナルな答えを持って面白がろう。

技術革新度、日本は60カ国中32位

東洋大学グローバル・イノベーション学研究センターまとめ、2019年11月

- ・就業者1人当たりの生産性や特許出願数、産官学などの研究開発スタッフの多さをはじめ全58項目を評価、集計して比較。我が国は、急速に進む少子高齢化や起業意欲の乏しさなどが響き、振るわない結果となった。
- ・トップはシンガポールで、高い労働生産性や温室効果ガスの削減率などが評価された。以下、ルクセンブルク、スイス、ニュージーランドと続き、上位20位には米国(9位)、中国(15位)、ドイツ(20位)が入った。

「技術革新のネタは企業や大学でなく市場にある」 井深 大(ソニー創業者の一人)

提言集： 社会保障の本質は弱者に対する保障だ！

～担い手を増やすだけでは社会保障制度は持続できない！～

パソナ総合研究所。2020年5月。

- ・「全世代型」社会保障改革には、国民に、健康である限り制度の担い手として働き続け、病気や加齢により弱者になった時だけ制度の恩恵を受ける覚悟が必要。
- ・年金制度は、最低保障部分(基礎年金)の財源は世代を超えて負担する消費税に一本化し、厚生年金の二階建て部分は働く限り保険料を払い、受取りは働くことができなくなった後に延期すべき。
- ・公的医療制度の維持には、急性期サポートは維持しつつ高齢者に多い慢性期のサポートは技術進歩などによる大胆な合理化が必要であるほか、健康維持に取り組む健康組合の努力を損ねるような施策は廃止すべき。

人として生きる道 ～ホスピタリティ・ウェイの考え方

産業能率大学 総合研究所 経営管理研究所 主席研究員 中根 貢さん。2021年1月

- ・「おもてなし」「思いやり」に加えて、「人徳」「道徳」「人間らしさ」などを包含した概念。「相互容認」「相互扶助」「相互発展」を遂げるもの。
- ・人間らしさの発揮。人の内面(マインドフルネス)への注目が高まっている。

「韓国に並ばれる」。なぜ日本は貧乏臭くなったか

プレジデントオンライン。2020年2月。

・日本の格差の特徴は、バブル崩壊後の1990年代から経済成長率が著しく低下した結果、「就職氷河期」の直撃を受けた世代にシワ寄せが来て若者の貧困化が進んだこと。

・一方で、戦後日本社会を牽引してきた団塊の世代は雇用と収入を守られ、定年後は手厚い年金・社会保障を享受。日本の格差は「世代間格差」で、本来、経済成長を担うはずの若者から活力を奪ってきたことが日本経済の失速の大きな要因。

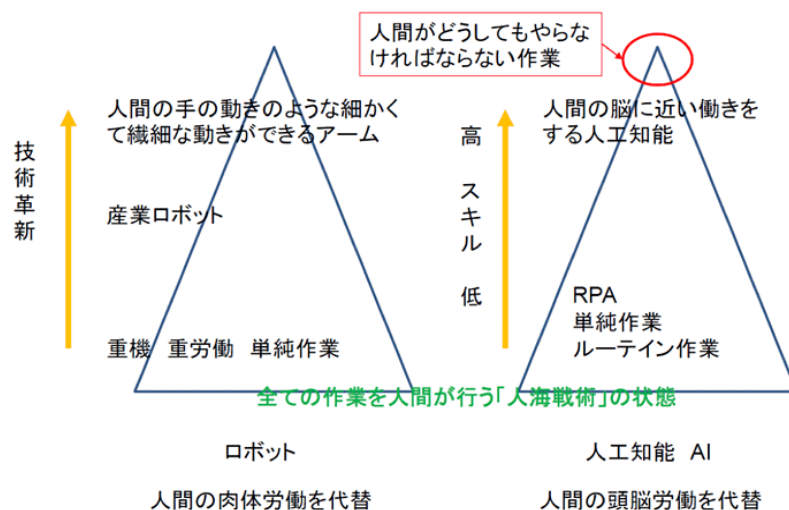
「AIと雇用を巡る中長期的な課題」

経済産業研究所(岩本晃一さん／リサーチアソシエイト／日本生産性本部)。2021年4月

・全ての作業を人間が行う「人海戦術」の状態から機械が担う作業と人間が担う作業への分化

・AIは過去の延長線上でしか、考えることができない機械。そのため過去の延長線とは違った判断をAIに求めるのであれば、AIに対して恣意的な操作を人間が加えないといけない。すなわちAIが判断した、と言いながら、結局はAIに手を加えた人間の判断である。

機械が人間の労働を代替していく過程 イメージ



五輪金メダリストの言葉

海外のアスリートの名言には、リスクを恐れず挑戦することの大切さを説いたものが多い。

OCEANS(田澤健一郎さん)。2019年9月。

「失敗と共に生きる。挑戦しないことは、何にもならない」 サーニャ・リチャーズ(米 女子陸上短距離)

「選択できるなら、いつも冒険を選ぼう」 アダム・クリーク(カナダ、ボート)

「厳しい練習にとって代わるものなど存在しない」 アンドレ・アガシ(米 男子テニス)

「リスクを取ることに怯えるような度胸の無いヤツは、人生で何も達成できないだろう」

モハメド・アリ(米 伝説的ボクサー)

下(部下)が上(上司)を知るは3日。上が下を知るは3か月、あるいは3年

部下が求めている理想的なリーダー像は、①他部門との調整能力。そして、統率力、決断力。
②部下を正しく評価する目。 ③洞察力をもって自分の信念(ポリシー)で判断、行動。

50年変わらなかったものを、あと10年で変える

野村證券金融経済研究所 所長 許斐 潤さん。2021年4月

・政府は…補正予算で、多くの救済策を決め、…万全を期す予定だった。…たとえば、中小・零細企業に救済のための緊急融資を行うことにしていたが、その内容と手続きが、あまりに細かく複雑だった。緊急融資には…『小規模企業特別融資』など七種類もの区別があり、そのそれぞれについて複雑な手続きと多数の添付書類が要求された。失業対策もそうだった。

…特別給付金として給付することにしたが、…これらの人々の認定と従来所得の確認は著しく難しかった。観光地は客がなく、半分以上の観光ホテル・旅館が完全休業状態に陥っている。

・これらの記述は、新型コロナ禍で混乱する現在の日本のことではない。1975年に刊行された堺屋太一の『油断!』からの一部抜粋である。

週刊ダイヤモンドが「1億総リストラ」を特集 東洋経済、エコノミストは？

J-CAST会社ウォッチ。2021年4月

「週刊ダイヤモンド」(2021年4月10日号)の第1特集は「1億総リストラ」。黒字でもリストラ。

・2020年、上場企業約100社が早期・希望退職者募集を打ち出した。最大の要因はコロナ禍の直撃だ。早期・希望退職者の募集を打ち出した企業のうち3割は黒字企業。

・赤字企業の場合、希望退職の先に待っているのが整理解雇。しかし、日本で現実的には ①人員削減の必要性 ②解雇回避の努力 ③人選の合理性 ④解雇手続きの妥当性の「整理解雇の4要件」が必要。

不況克服の心得10か条 松下幸之助

- ①「不況もまたよし」と考える ②原点に返って、志を堅持する ③再点検して、自らの力を正しくつかむ ④不退転の覚悟で取り組む ⑤旧来の慣習、慣行、常識を打ち破る
- ⑥時には一服して待つ ⑦人材育成には力を注ぐ ⑧「責任は我にあり」の自覚を ⑨打てば響く組織づくりを進める ⑩日頃から成す(為す)べきことをしておく

一流のハンターは「下手な鉄砲」を撃ち続けている。がゆえに一流！

先行き不透明の市場に向けて撃っているのだから1000発中2、3発当たれば「よし」とする「千3(せんみつ)」のご時世。「したたかさ」と「なんとかなる」という大らかさ。そして「根気と知恵」でこの難局を乗り越えていきたいもの。

『藤田 田から教わったお金と時間の不変のルール』

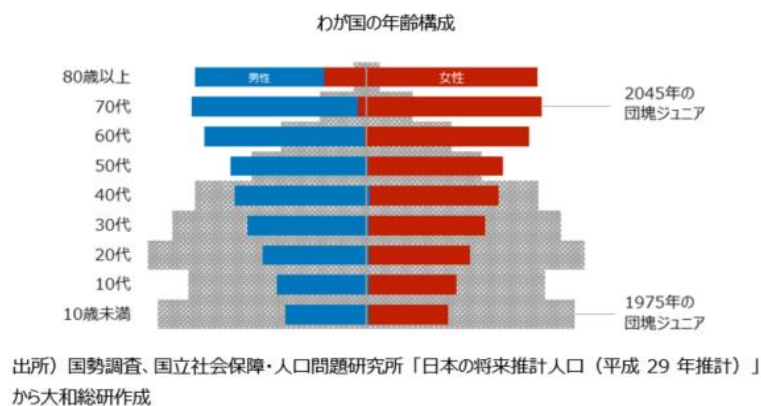
ジーン・中園 著(フォレスト出版、2020年9月)

・創意工夫とは、知恵と行動によりお金と時間を生み出す不変のルール。すべては1からスタートする。ツキは能力にまさる。明日から今日を行動せよ。手柄は部下のものとせよ。ポジティブがポジティブを生む。

・ピンチとチャンスの方針：従業員を生かす方法を考えよ。「万事塞翁が馬」と知るべし。

団塊ジュニア世代が70代になるとき。逆ピラミッド年齢構成の衝撃

大和総研 金融調査部 主任研究員 鈴木文彦さん。2021年4月



楽しく稼げて人生に役立つ「副業」の始め方

プレジデントオンライン(中野貴利人さん)。2019年9月。

- ・能力アップに役立つ…… 経営力や自己管理能力が自然と高まる。
- ・副業は“プチ起業”…… 経験を積んで将来のキャリアに備える
- ・はじめる前にチェックしておくべきこと…… 副業の目標を明確にする

危機を乗り越えて生まれ変わる職場と働き方の未来像

PwC米国 Bhushan Sethi、Deniz Caglarさん。2021年4月。

・パンデミックによって生み出された(または悪化した)新たな現実に対処するために仕事をする場所を再定義する。2つ目は、この取り組みをより公平で、多様性を尊重する包摂的な労働環境をつくる機会として利用する。

・人々はより良い未来を望み、組織もまた、より持続可能な事業運営モデルを模索。より良い仕事をつくる。人への投資と多様性を尊重する包摂的な職場を実現する。

『リモートワークの達人』

ジェイソン・フリード、デイヴィッド・ハイネマイヤー・ハンソン 著、高橋璃子 訳(早川書房、2020年7月)

・リモートワークの時代がやってきた。怠けよりも働きすぎに注意しよう。無駄な承認や手続きは根絶しよう。存在感は仕事でアピールしよう。部下を見張るのはやめにしよう。1日のリズムを作ろう。

・情報を閉じ込めてはいけない。バーチャルな雑談の場をつくる。進み具合を共有する。印象よりも中身を見る。自宅にも快適さが必要。顧客の不安をとりのぞく。リモートワーカーは人柄が大事。

『「うまくいく」考え方。新しい時代で幸せになる5つの法則』

本田 健 著(プレジデント社、2021年3月)

- ・チャンスをつかむ準備をする
- ・小さな「ひとがんばり」を加える人が成功する。どんなときにも、もう1回工夫してみる。
- ・求められるのはすばやく修正できる力

自然史(野生動物)にみる生き抜き戦略

秋田経済研究所(小松 守さん/秋田市大森山動物園 園長)。2021年3月

・歴史探索は来た道を教え、行く道を照らす。今生きる動物は過去の環境変化にめげずに生き続けたある種の成功者、生き抜き戦略を教えてくれる。

①自身の強みを生かし、環境に適応させ生き方を変化させる ②無用な戦いをせず共生する ③生き抜くための挑戦

新型コロナで見た世界 科学と政治の深い溝

キヤノングローバル戦略研究所 鎌江伊三夫さん／研究主幹。武蔵野大学国際総合研究所MIGAコラムに2021年4月2日掲載

・結局、「まん延防止等重点措置」か「緊急事態宣言」かといったような政治選択は、政治家の「やってます感」以上の何ものでもないように見える。

・感染抑止の実効性を高めるために、科学と政治に本気で橋を架けようとするなら、どのように2つの橋げたを造るのか。あるいは、科学と政治の深い溝をどう埋めるかといった本質的議論が必要。

野中郁次郎氏が提唱する共感経営の新モデルとは？

Japan Business Press(一橋大学 名誉教授 野中郁次郎さん)。2021年2月

共感することは「自分が悩むこと」。「同感(Sympathy)」から「共感(Empathy)」へ。人間の生き方や物語が戦略の中心になる。AIが進化するほど、ヒューマナイズが求められる。

ポストコロナ論議の忘れ物

三井住友信託銀行(専門理事、主席研究員 金木利公さん)。2021年4月

ポストコロナでは複合的な産業構造転換圧力に対する日本経済の適応力が試される

この適応力の高低は、①需要の伸びが大きい成長領域を見出せるか、②その領域にヒト・モノ・カネといった生産要素がスムーズにシフトできるか、③それによって、その領域並びに経済全体の生産性と付加価値率が高まるか。

④生み出された付加価値が適切に分配かつ活用されるか、⑤新興国・途上国の工業化に対応した適切な国際分業が行われるか(いわゆる空洞化が回避できるか)ーといった要因で決まってくる。

コロナ禍による所得格差の拡大・固定化への懸念

富国生命 財務企画部 大野俊明さん。2021年4月

・株高で富裕層への富の集中は一段と加速か

・所得格差の拡大・固定化を抑制するため、コロナ禍で強いダメージを受けた低所得者層が、より公平に回復できるよう雇用環境を整えるべく、バランスのとれた労働政策、就業支援の強化が求められる。

「多異変(たいへん)な時代」にリーダーが大切にしたいこと

日本能率協会 KAIKA研究所 近田高志さん。2021年2月

・リーダーにとって大切なことは何か。まず頭「Head」、次に心臓「Heart」、そして最後にお腹のあたり「Guts」(ASTD(米国教育訓練協会・現ATD)元会長のスティーブン・ラインスミス博士)

・5つのC:「Curiosity(好奇心)、Creativity(創造性)、Communication(コミュニケーション)、Courage(勇気)。そしてCare(ケア)」+6つめのCとしてCommitment(コミットメント)。(世界銀行グループのIFC(国際金融公社)の局長等を歴任された武市純雄さん)

「職場力」を再生する。リモートワーク時代の「場」のマネジメント

Japan Business Press(JMAC編集部 星野 誠さん)。2021年2月

- ・リモートワークで「職場力」の差が見えた
 - ・協働作業の知恵集めの「場」をつくる
 - ・「職(仕事)」はつなぐことが重要。仕事の背景や目的を徹底的に共有。
-
-

イノベーション企業ランキングトップ50を発表

アメリカ・ボストン コンサルティング グループ(BCG)『イノベーション調査2021』。2021年4月

・日本企業は他国に比べイノベーション成熟度が低い。成功のカギは、イノベーションを実現するための準備態勢の確立。

・コロナ危機を変曲点に、イノベーションが経営のトップアジェンダに。日本企業は、他国と比べイノベーションへの投資意欲や仕組みの成熟度が低い

・日本企業では9位にソニー、21位にトヨタ自動車、33位にファーストリテイリング、45位に三菱商事と計4社がランクイン。

『見ない、聞かない、反省しない。なぜかうまくいく人の秘密』

大嶋信頼 著(青山ライフ出版、2019年6月)

・自分を大切にする、優しくなれる。直感を信じて行動。浮かんでくるネガティブな感情は「見ない」。不快な音、話は「聞かない」、清く正しく生きようと「反省しない」。この不快なものたちは、相手の不快な感情まで呼び寄せてしまうから厄介。

・なぜ心配しなくていいのか。心配事はほぼ起こらない。心配癖は自分を苦しめるだけ。

今、求められるプロデュース思考力とは

産業能率大学 総合研究所 松尾 泰さん。2020年6月。

「短期的な成果を出すことを意識しつつ(アカウンティング思考)、長期的視点であるべき姿を描き、現状(集めることができる情報)を可能な限りすべて集め、最適な資源配分を行う(ファイナンス思考)」ことを「プロデュース思考力」と定義。

- ・仕事時間の70%：既存のビジネスをしっかりと考える(アカウンティング思考)
- ・仕事時間の30%：新しい社会を創造しそれに対して自社にできる事業を考える(ファイナンス思考)

『ナメられない組織の作り方。どんな状況でも利益を出す「超格差戦略」』

クォン・オヒョン 著、北野博己 訳(KADOKAWA、2021年3月)

・会社存続の危機から世界トップへ。著者は、サムスン電子の半導体神話を現実にした伝説のCEO。人を配置する前に組織図を描け。誰を(適任者)、どこに、いつ、どう配置するか？

・戦略(生存と成長)。汝自身を知れ。選択戦略：仕事ができないからではなく、多すぎるから失敗する。人材(原石と宝石、発掘と育成)、絶対に避けるべき人をまず除外する。人事は損益ではなく生存の問題。

「ツキを呼ぶ経営こそが本物だ。運には天運と人運とがある。天運は神様が決めるものだが、人運はその人の努力や生きようで変わってくる。

したがってリーダーである経営者の心構えがモノを言い、ツキを招き寄せることだってできる」 鶴 正吾(日本オイルシール社長)

コロナ禍で考える『デジタル化』～デジタル化に乗り遅れてはいけない理由

大和総研 経営コンサルティング第二部 主任コンサルタント 柳澤大貴さん。2021年4月

企業には、業務の見える化とデータ化、次にデータの蓄積。そしてデータの活用による新たな価値の創出が求められている。

「男は真っ向から闘い、天辺に立つか、逆に思いもつかぬ隙をついていくかだ」 浜田庄司

「真面目に考えよ。誠実に語れ。ひたむきに行え。汝の現今に撒く種はやがて汝の収むべき未来となって現れるべし」 夏目漱石

編集・発行 (同)ドンマイ(快便研究所)

熊本県八代市長田町2900

eメール: info@donmai88.com

HP「合同会社ドンマイ」で検索

日々、洪水のように流れてくる情報社会にあって、有用で文化的価値の高い情報が散逸したり、埋没したりして失われてしまうことは社会的に大きな損失です。この『ノート』はそれらの優良情報の所在(レファレンス)を広くお知らせすることを役目としています。